

平成 27 年度第 1 回学校協議会実施報告

実施日時：平成 27 年 6 月 12 日（金）午後 5 時 30 分～7 時 30 分

実施場所：本校会議室

学校協議会委員出席者（五十音順）

塩見委員、田中委員、田峰委員、長澤委員、春山委員、

事務局出席者

松浦（校長）、古藤（教頭）、富澤（事務長）、川村（首席・2 年学年主任）、

原田（教諭・教務主任） 宮内（教諭・進路指導主事）、山崎（教諭・生徒会）

中村（教諭・1 年学年主任）

I. 次第

(1) 校長挨拶

(2) 委員の紹介及び事務局の自己紹介

(3) 本校の現状報告（校長、宮内、古藤）

- ・学校経営計画について
- ・6 期生進路結果について
- ・教科書選定の手続きについて

(4) 保護者からの意見について

(5) 質疑・応答

内容

< 挨拶 >

校長より 入試制度の改変（アドミッション・ポリシーと絶対評価等）、普通科総合選択制の再編整備計画等。

< 現状報告 1 >

27 年度学校経営計画中期目標について説明（校長）

1 「進路実現をはかる学力の育成」

- (1) 「わかる授業」をめざし、授業改革に取り組む
- (2) 「確かな学力」の定着から進路実現できる学力の育成

2 「豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成」

- (1) 国際社会に通用するコミュニケーション力のある人材の育成
- (2) 部活動の活性化を図る

3 「地域と連携し、社会に貢献する教育活動の展開」

- (1) ユネスコスクールの活動を基盤に、社会参画意識の育成を図る

27 年度学校経営計画の重点目標について説明（校長）

1 「学力の向上」

(1) 「わかる授業」をめざした授業改革

- ・授業アンケート及び、学校教育自己診断を今年も実施する。そして、アンケートの肯定率のアップを図る。
- ・ICT 機器を活用した授業づくりをめざした勉強会を開催

(2) 生徒のモチベーションを高める取り組み

- ・進路指導部が中心となって、大学の有名講師を招き、進路実現のための人材育成プロジェクト「夢実塾」を月 2 回開催

(3) エリアの充実

- ・エリア発表会（つばさコレクション）の充実

2 「豊かな人間性の育成」

(1) 国際社会に通用する人材の育成

- ・オーストラリア語学研修の実施を国際交流委員会が中心となって立ち上げ、本年度 7 月に実施

(2) 生徒指導の充実

- ・規範意識の確立、特に自転車通学のマナーの向上のため、本年度も「自転車免許講習」の実施をした。

(3) 部活動の活性化

- ・部活動加入率をさらに上げていく。今年の 1 年生の入部率は昨年度より上回る数値（60%以上）であった。部活動は人間性を磨き、勉強も頑張れる生徒を育てると考えている。

委員からの質問・意見：

○自転車マナーにおいて、雨の日のカサさし運転の指導はどうなっているか？学校によっては厳しく指導している学校もあると聞いている。

○学校には、貸出用のカッパを準備していないのか？

事務局：

- ・1 年生には、カッパを持っている生徒にしか自転車通学の許可証を発行していない。ただ、朝は雨が降っておらず、帰るときに雨が降り出した時にカッパを用意している生徒は少ないのが現状である。今後も、法律で決まっているカサさし運転の指導をきっちり行っていきたい。

委員：

○「学力の向上」においては、先生方が生徒に勉強の仕方をきっちり教えることが重要である。勉強の肝になる学習指導、つまりどうすれば成績があがるのか、またど

うすればやる気が起こるのかということが必要である。

事務局：

- ・自分で本屋さん行って、自分に合った参考書や問題集を探し、自分で見つけることが大事であると生徒には言っている。

委員：

- 中学校や小学校で、普段の授業中の小テスト等では、しっかり点を取っているのに定期考査では、追い詰められた気分になり、実力が全く出せない生徒がいる。高校でもそういった生徒がいるのではないか？テストの点数だけでなく普段の生活から見してほしい。

<現状報告2>

6期生の進路結果について（事務局より）

6期生の進路概況（別紙）を説明

- ・昨年度就職が減ったが、途中で就職指導についていけなくなった生徒がいた。そのため未定の数字が増えた。そのうち浪人は2名で、あとはフリーターがほとんどである。6期生は、しんどいことを頑張る、根気強く頑張るといふ生徒が少なかった。就職においては、女子は倍率が高く、1次では40%の合格であった。
- ・合格状況・・・
 - 産近甲龍は昨年度0であった。
 - 看護系の専門学校希望は6名であった。全員が希望の進路を達成した。
 - 就職では、大阪府警と自衛官候補生に各1名採用された。
- ・7期生はベネッセ進路マップの活用のほかに教員が進学ガイダンスを行う取り組みを考えている。また、今年度も4月から放課後講習を行っている。
- ・「夢実塾」は、週1回の学習会を行っている。自分で問題集を買ってきて、わからないところは教員がサポートする。

<現状報告3>

教科用図書の選定方法について（教頭）

- ・高校での教科書選定方法について説明
- 委員から特に意見なし

意見交換

委員：

- 子どもの意欲をいかに引き出すかという努力をしてほしい。

委員：

○タイの高校生と日本の高校生を比較してみると、日本の高校生には覇気が感じられない。将来の目的をタイの高校生は、しっかり持っている。日本の高校生は大多数がそうではない。また、日本では、自分を見つめる機会が高校までの段階でほとんどない。「あなたは、どう思うのか？」という問いが重要なのに、日本は「あなたたちは、どう思うのか？」という質問になっている。だから「私は～思う」ではなくて「私たちは～思う」という答え方になってしまう。

委員：

○指定校推薦のシステムは、よくわからないところがある。

・事務局：説明

委員：

○PTA と生徒の交流会を開いてほしい。

・事務局：校長より聞いております。7月の短縮中に考えております。

委員：

○いくつかの観点から話をさせてもらいます。

①大学側からみると高校の色が見えてくる。生徒や年齢が違っていても同じ高校出身の生徒は同じような傾向をもつように感じられる。高校での指導の大事さを感じる。

②大学側もキャリアガイダンスに力をいれており、実習ノートの書き方など細かく指導している。ただし、学習習慣が身につくかどうかで大学での学習に大きな差が出ている。

③仲間作りが下手で LINE でグループを作ることが仲間づくりだと勘違いしている。そして、その仲間から外れてしまうと、学校（大学）にも来なくなってしまう学生もいる。

④新しい教育システム、教材開発はタブレットで行えるものが活発に研究されている。また、アクティブ・ラーニングを取り入れるようにしている。

⑤今後もっと連携が重要となってくるので、高校と大学間の交流を深めていきたいと考えている。

<その他>

○保護者からの意見・・・なし

○次回の協議会について（校長より）・・・

11 月中に行うことを考えているが、内容としては、5，6 限目の授業を委員の皆さんに観ていただこうと考えている。水曜日の午後を考えているが、また日程調整をさせてもらおう。